

紙庭療法の試み



植いき新聞



植物いきいきサークル

第103号

発行者: 川端、菅原、
村田、孫崎、古新

心理療法の1つに、「箱庭療法」がある。箱庭療法とは、クライアントが自発的に、砂の入った箱の中にミニチュア玩具を置き、また砂自体を使って、自由に何かを表現したり、遊ぶことを通して行う心理療法である。¹⁾ 箱庭療法では「玩具」を使用し、1人で黙々と実施するものであるが、先日の当デイ園芸サークルでは、花や野菜の広告と、予め玄関と道路が書かれた画用紙を用いて、グループで庭の設計図作りを行った。²⁾ 目的は庭の設計を通しての自己表現と、それに対する参加者同士の交流とした。その結果、道路や玄関の配置への関心はあまり見られず、話し合いに発展しなかった。代わりに「きれいに切る」「きれいに貼る」へ注意が向けられた。結果として、切って貼る人の「ひとりの作業」となった。

今回、実際の住宅プラン図³⁾を用いて、2人1組で取り組む班と1人で取り組む班の2班に分れて(意図せず、結果的に分かれた)実施したところ、2人組で実施したグループはペア同士での会話がみられた。会話の中で「はさみで切る人」と「のりで貼りつける人」の分担が自然になされた。一方で、1人で取り組んでいる人に、他の作品も見てみるよう促したが、実際に席を立ち意見の交換を行うことはなかった。

前回と今回の結果より、3人以上での取り組みでは、全員が参加して全員が主体的に取り組む、各自が自己表現を行う環境を提供できたとは言い難い。また、1人での取り組みでは、他者との交流(会話)を促しても実現せず、実際は「ひとりの作業」となった。

これらから、自己表現と他者交流を行うためには、2人一組での取り組みが最適であることが示唆された。

1) <http://www.jscpp.jp/near/interview3.php> 2016年7月29日参照

2) <http://shokubutuikiki.com/top/?p=6526> 2016年7月29日参照

3) https://www.for-your-hearts-arex.com/images/article_plan/171_plan0_00720111123.jpeg 2016年7月29日参照